

動物の診察室から

○ 35 ○

この夏のある日、その日は気温もかなり高い、真夏日でした。マルチーズが抱かれていたのでズの子キティちゃんはお父さんと一緒に車で出掛けました。

お父さんは少しの間だけ、車の窓を細く開けて、キティちゃんを車の中においていったのですが、戻ってみると、キティちゃん

その子の名前は「健太



退院後の健診にきた健太君

門脈シャント

ちゃんはぐったりとしました。

キティちゃんは、熱射病で腸からの出血が始まっており、翌日の明け方息を引き取りました。お父さんはキティちゃんを抱きながら「俺がわるいんだ、ごめん」と何度も何度も声を掛けていました。

それから1カ月くらいして、お父さんが病院へおいでになりました。そ

血管結ぶ手術で健康に

ます。そして腸管で発生したアンモニアは肝臓で無毒化されて静脈へ流れるのですが、門脈シャントは、本来肝臓へいく門脈から、直接静脈へ入っていく枝分かれた血管が短気です。このよう

君、とても小さな男の子です。その日の健康診断では特に異常はなく、お父さんは、大きな体になんか抱いて帰る大事なことに悩んでいました。しかし、3日後、嘔吐が数回あり、食欲も元気も急になくなりました。夕方には元気になったので

すが、その後も、時々嘔吐があったり、元気がなくなったりします。体も小さい子です。このような症状のときに疑われる病状の中に、「門脈体循環シャント」があります。

腸から集まった血管は門脈となつて肝臓に入り、その後、時々嘔吐が頻りに出てくるようになります。このように、アンモニアが体を通して、嘔吐や下痢を起したり、重症になることがあります。この分まで長生きしてくだ

健太君は生後2カ月半で体重は1・1kg、元気がなくなりました。門脈シャントは何かしなければ寿命が短い病気ですが、早く手術をしてあげれば、健康な体になります。健太君は優しいお母さんとお父さんと、キティちゃん

